

# 平成22年度（第46期）事業報告

## ◇ 募 金 事 業

275件 3,896万円

平成22年度の寄付金は、5,000万円の予算額に対して実績額3,896万円で、予算比1,104万円、前年度実績（4,031万円）比で135万円の減少となった。4,000万円の大台を割り込んだのは昭和47年度の3,674万円以来約40年ぶり。寄付総件数は275件（うち支社支局は128件）で、前年度比44件の減。30万円以上の大口寄付は57件（同16件）で2件の増。景気の後退基調や寄付件数全体の減少もあり、予算を下回った。

（別表1参照）

## ◇ 貸 付 事 業

1,100万円

社会福祉法人に対する設備資金の貸し付けは、予備費を含めた予算額6,000万円に対し、恵庭市の社会福祉法人・恵正会の授産施設改修工事に800万円、北広島市の社会福祉法人・広島未来（みく）の会の保育園改修工事に300万円の2件、計1,100万円を貸し付けた。貸付利率は1.7%。

<貸付先名>

<貸付額>

恵正会（恵庭市）

授産施設の改修工事費

800万円

（償還3年）

広島未来（みく）の会

はだかんぼ保育園改修費

300万円

（償還6年）

償還金は9,913万円ではぼ予算通り。今年度の完済件数は3件、繰り上げ償還は2件で、今年度末の貸付け件数は61件、貸付金残額は6億7,834万円となっている。貸付金利息収入は1,577万円と前年より214万円減少した。

（別表2参照）

## ◇ 助 成 事 業

6,153万円

平成22年度の助成事業は、歳末たすけあい運動、奨学金、道新ボランティア奨励賞、小規模授産施設助成、一般公募助成などを行った。また、日本財団（東京）の助成事業として7月に札幌市で開催したチャリティーコンサートの入場料収入344万円を寄付金として受領し、北海道社会福祉協議会を通じて北広島市の社会福祉法人が建設した地域交流ホームの建設支援費として助成した。このため、予算額6,040万円に対し、実績額は6,153万円と予算を113万円上回った。

（別表3参照）

### 1. 歳末たすけあい助成

900万円

12月1日から28日まで、歳末たすけあい募金を通常の寄付と並行して受け付けた。この募金に基金からの拠出金を加えて900万円を予算通り北海道共同募金会に助成した。このうち600万円は札幌交響楽団に指定寄付し、「道新福祉コンサート」を札幌、旭川、釧路、苫小牧など7カ所の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などで開催した。また、札幌市の協力を得て、母子家庭や高齢者などを札幌コンサート（札幌・キタラホール）に招待する事業も例年通り実施。計5回の演奏会に各回42名、計210名を招待し、生のコンサートを楽しんでもらった。残る300万円は、同募金会で他からの募金も合わせて低所得世帯への見舞い金や高齢者のための在宅サービス事業などへ配分された。

### 2. 奨学金助成

2,212万円

母子家庭や児童養護施設など各種福祉施設から高校、高等養護学校などに通う高校生に対する奨学金で、総額2,212万円を上期と下期の2回に分けて支給した。

支給は、1名につき年額6万円を北海道母子寡婦福祉連合会、札幌市母子寡婦福祉連合会、北海道児童養護施設協議会、北海道身体障害者福祉協会の4団体を窓口、合計370名（総額2,220万円）に支給を決定したが、退学などで一部奨学金が支払われなかった。

3. 道新ボランティア奨励賞 **268万円**

当基金と北海道新聞事業局、北海道社会福祉協議会（以下道社協）が主催し、道内で地道な福祉活動を行っているボランティア団体・グループを表彰している。1977年（昭和52年）に創設された賞で、今回が34回目。

5月20日朝刊に社告を掲載、同時に道内の各市町村、市町村社会福祉協議会などに推薦要領を送り、7月2日に締め切った。応募は一般奨励賞54件（前期より30件減）で、特別奨励賞の応募は2件（同1件減）。予備審査を経て9月2日に審査会を開き、一般奨励賞（奨励金は25万円）を10団体・グループに贈ることを決定した。

表彰式は10月30日に札幌市で開催された「ボランティア愛ランド北海道2010in札幌」の席上で行われ、表彰盾と奨励金を贈った。予算額350万円に対し82万円の減。第34回までの累計の受賞団体は325団体・グループ、奨励金累計額は8,725万円となっている。

4. 小規模授産施設への各種費用助成 **441万円**

1985年（昭和60年）に助成制度が創設され、今回が25回目。道新（事業局）、道社協の協力を得て、小規模通所授産施設が行っている生産活動の器具備品整備に50万円、研修参加に10万円、法人格取得は社会福祉法人30万円、NPO法人10万円をそれぞれ限度に助成している。

4月24日朝刊に募集要項を掲載、小規模通所授産施設や市町村社協などに要綱を送り、5月28日に募集を締め切った。器具備品整備に22件、研修参加に1件の計23件（助成申請総額は532万円）の応募があった。6月30日の道社協の授産事業振興センター運営委員会の予備審査を経て、7月27日の基金評議員会で20施設（うち研修参加費用1件）への助成を決定した。予算額600万円に対し159万円の減。

5. 一般公募助成 **1,687万円**

道新（事業局）、道社協の協力を得て、福祉人材の育成事業やNPO法人支援、福祉を通じた地域のまち起こし活動支援など、道新社会福祉基金の名にふさわしい活動への奨励策として取組んでいる。各種福祉活動、ボランティア活動を行う団体、グループから応募を受け、1件50万円を限度に助成している。今期は前期と同じ1,700万円の予算で実施した。

小規模授産施設助成と同時に4月24日に受け付けを開始、全道から146件（申請総額5,361万円）の応募があり、5月28日に募集を締め切った。予備審査を経て7月28日の評議員会で48件の助成団体・グループを決定した。予算額1,700万円に対し、13万円の減。

6. その他の助成事業 **644万円**

北海道交通遺児の会育英奨学金（50万円）、北海道障害者スポーツ振興協会（車いすマラソン、スポーツ大会、各30万円）、北海道いのちの電話研修事業（20万円）、ふきのとう文庫布の本製作事業（10万円）など予算化された事業に加え、札幌市で9月に開かれた全国肢体不自由児・者父母の会連合会全国大会（30万円）の12件の事業に助成した。また、日本財団の助成で7月に札幌市で開催したチャリティーコンサートの入場料収入344万円を、北海道社会福祉協議会を経由して北広島市の社会福祉法人が建設した地域交流ホームの支援金として寄託したことから、予算を374万円上回った。

◇ 道新みらい君奨学金 **124万円**

当基金の創立40周年記念事業として平成17年度に創設された。道内の私立高校生を対象に、家計を支える人の突然の解雇や死亡などで経済的に通学を続けることが困難な場合に、緊急的に奨学金を贈る制

度。厳しい経済環境を反映、21年度の支給実績は570万円に達したが、22年度から国などが私立高校生にも最大で月額3万円を支給する「就学支援制度」をスタートさせたこともあり、支給実績は6件124万円と予算額720万円に対し、実績額は596万円の減少となった。

- ◇ 情報管理システム開発 26万円  
寄付金、貸付金、助成金のデータ管理のためのシステムを構築しており、システムの年間保守管理費用を支払った。予算額25万円に対して1万円の増。
  
- ◇ 事業運営費 130万円  
社会福祉の啓発と当基金事業PRの費用で、新聞などに広告を掲載している。今期も年間を通じて道新、道新スポーツに広告を掲載したほか、道新ポケットブックなどにも広告を掲載した。ポケットブックの広告掲載が2回分少なくなったことから、予算額150万円に対し20万円の減。
  
- ◇ 基金運営費 1,341万円  
人件費、福利厚生費、会議費、消耗品費、諸費など事務局を運営するための経費。予算額1,230万円に対して、事務局員の退職に伴う退職金給付支出（121万円）があったことから111万円の増。